

5/6 けやきな感謝祭

今年は「はかり屋」na-yaにて！

今年も年に一度のお客様感謝祭を開催させていただきました！今年も例年のバーベキューから昨年オープンした「はかり屋」のna-yaギャラリーをお借りして盛大に開催することが出来ました。毎年少しずつ増えるお客様同士の輪も広がり、嬉しい限りです。いつかはこのメンバーで建築ツアーが出来ることを夢みております。



5/25 越谷未来トーク出演

omusubi 不動産から学ぶ地域の空家資源の活用

越谷を若者目線で発信するメディア「KOSHIGAYAZIN」プレゼンツの越谷未来トークにゲストとして参加させていただきました。越谷の空き家や空き店舗をどのように活用していくのか、松戸市のおむすび不動産さんの先進的な取り組みを学び、越谷でも機運が高まるきっかけとなりました。



5/12 あちゃあちゃ出店

木組みジャングルジムワークショップ

ゴールデンウィーク明けの週末に、越谷駅前で開催されたオーガニックフェスあちゃあちゃに今年もジャングルジムワークショップで参加させていただきました！天候にも恵まれ、全5回総勢100名の子どもたちに体験して貰うことが出来ました。常に満員御礼、改めてジャングルジムWSの人気の高さを実感する事が出来ました。子どもたちに無垢の木の気持ち良さや大工仕事の楽しさを伝えたいです！



6/21 建築士会青年委員会

関東ブロック埼玉大会 in 秩父

畔上が所属している建築士会の大会の地域実践活動報告会で、なんと最優秀賞を受賞しました。これを受けて、9月に函館で開催される全国大会へ、関東甲信越代表として発表を行います。



全国制覇を目指して頑張っています！



自然と共に生きる家 完成

春の暖かさが増してきた3月末、自然と共に生きる家が完成しました。総括も踏まえ、内部の工事をご紹介します。



越谷市

工事前にこの家を調査した結果から、構造上必要と思われる場所には柱を足し、逆に抜いても問題のないところは柱を抜き広々とした空間となるようにしました。同時に部屋の用途・使い方から柱をどうしても抜きたいところには新しく梁を入れ補強することで構造と使い方を計画していました。それでも解体してみると2階の床の構造があまり強



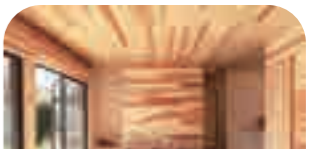
after



before

くないなど、新たな問題もあり、現場対応をしながら構造補強してきました。

また、1階南に面してあった6畳、8畳2



間続きの座敷はひと続きにしてリビングダイニングとし、さらに奥のキッチンとも繋がった一体的な間取りになりました。



床・壁・天井全て埼玉県産の杉材で仕上げ、木に囲まれた温かみのある空間になりました。さらに奥には階段がありますが、実はこの階段の上がる向きを反転させています。以前

は中廊下を通して2階でしたが、向きを変えることで、リビングで家族と顔を合わせて2階へ上がるという狙いがあります。

今回内・外部含め、ふんだんに埼玉県産の杉材を使っています。地域の木を使って温かみのある家づくりをしたいというのが私たち、お施主様の思いでもあり、その思いを共有する良い家づくりができたと思います。桜が満開の中、最後には完成見学会も行わせていただき、気持ち良くお引き渡し完了しました。本当にありがとうございました。



UPCOMING EVENT

8/24 木とのふれあい祭り in さいたま市

材木市場を身近な存在に！をテーマに、夏休み最後のジャングルジムワークショップを開催します。いつもは入る事のない、材木市場に是非遊びにきてください。



あとがき

今号も最後までありがとうございました。さて、令和元年5月1日より、ふたつの会社を統合し社名を株式会社けやき建築設計・樺組といたしました。業務内容、メンバーには変わりはありませんが、新しい時代を迎え、弊社も新たな気持ちでスタートすることにいたしました。それに伴い、代表取締役位に畔上順平が就任し、これまで代表取締役を務めておりました、畔上喜平が取締役会長に就任いたしました。今後とも皆さまのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

順平



株式会社 けやき建築設計・樺組

〒343-0023 埼玉県越谷市東越谷3-8-6
TEL.048-966-2268 FAX.048-954-7484

順声平語

【第10回】改めて国産材の利用を考える

昭和30年にはほぼ100%だった木材自給率（木材消費の国産材利用の割合）は高度経済成長と共に、2002年に18.8%と過去最低自給率となりました。日本は国土の約7割が森林に覆われる森林大国なのに、なぜこんな事になるのか。当時学生であった自分にとっては不思議でなりません。近くにあるのに遠い存在である国産材は安くて安定供給される外材に押されておりました。現在は国の政策によって約35%まで回復しています。それでもまだまだ使用量よりも成長量の方がはるかに上回っている状況が続いています。我が埼玉県を例にとってみても、年間約8万㎡の伐採供給に対して、供給量の3.5倍にあたる29万㎡が成長し、使える材料がどんどん増えています。さらに建築材として利用が可能になる46年生以上

が人工林の8割を占めるという状況です。まさに山でも少子高齢化が進んでいます。今後計画的に植林をするにしても、今ある木を伐採した後になります。戦後植えた針葉樹の杉や桧がまさに使い時なのです。

国産材は日本の風土にあった優れた材料であり、競争で負けていた価格でも外材と変わらない状況になってきました。無垢材だけでなく、合板生産も増えています。良い材料が比較的安く、たくさん使う事が出来る現在は、消費者側にとっても最もメリットのある時期だと思っています。弊社でも出来る限りは国産材利用を実践しておりますが、皆さまにも家づくりだけでなく、事業用としての店舗や施設にも国産材の利用を是非お勧めします。

